

2005年5月15日 県大会三日目（於 上尾）

何といっても学校の総力戦になる県大会。
毎年 この場で様々なドラマが生まれ、それは
時に歓喜であったり涙であったりする。



春高はもはや競歩の強豪として、毎年入賞
を果たしている。
が、しかし関東への切符はわずかに3枚。
金子と小木は懸命に歩いた。

5位入賞を果たし、連続入賞記録をつない
だ。



男子200mのセミファイナルが始まった。

後藤は100mとの二冠を狙う。
順調な滑り出し。

伊藤は昨年の県新人では肉離れのため走れていなかった。
今年こそ関東への切符をつかむべく力走する。100mではすでに3位。
さらに200mでは後藤を脅かせる安定感がある。
決勝への充分確かな手ごたえをつかんだようだ。





石川は昨年までは400m中心のロングスプリンター。

しかし、そのスピードは磨きがかかり、200mでの入賞、関東への切符が見えてきた。

準決勝は全員通過。

春高は200mでも3人ファイナルだ。

後に、県新人で200mを制覇するまでに成長する。

徳永は1500m3000mSCで大幅自己記録を更新した。
中長距離班として奮闘。

その後は大学でめきめき頭角をあらわす。
大学生として、現在県選手権では堂々の入賞を果たしている。



200m決勝。

春高が3人並ぶ。

実力通り、後藤が飛び出す。

伊藤も食らいつく。石川も最後の50mでするすると上がってきた。



劇的な瞬間であった。

後藤は頭ひとつ抜け出して勝った。

0.09秒遅れて伊藤は3位。

石川が最後ねばって6位入賞を果たした。

7位とは0.02秒の僅差。

100mと200mで3人入賞するのは、春高創部90年の長き歴史の中でも稀である。

後藤 1位 21秒78

伊藤 3位 21秒87

石川 6位 22秒19

三日目の最終種目は定番のマイル予選。



100mで4位に入った田中をトップに持ってくる。2走は腰痛に悩む伊藤直輝。がんばれ。

予定通りのラップで、石川につなぐ。



石川は本来400mのロングスプリンター。
余裕の走りで高橋に。



高橋は跳躍を捨てての両り
レー。
実は38度の高熱があった。
しかし、若い気力はそれに
勝った。

翌日の決勝では春高歴代3位の
3分18秒39をマークする。

我々OBにとって現役のリレーの活躍はことさら
うれしい。
リレーとはメンバーだけでは勝てないし、期待通
りの結果が必ず出るものでもないからだ。
だから若い後輩には、順調に次のラウンドへ進ん
でほしいと願う。

気持ちは優勝より「無事に・・・」である。
次はいよいよ関東だ。

筆 撮 37回 のもと歯科

